

「日本語教育の参照枠」の活用に関するワーキンググループの進め方**○経緯**

国内外の日本語学習者が日本語の習得段階に応じて求められる日本語教育の内容及び方法を明らかにし、外国人が適切な日本語教育を受けられ、評価できるようにすることを目的として、「日本語教育の参照枠」一次報告、二次報告を第 20 期日本語教育小委員会において取りまとめた。令和 3 年度にはこれらを併せて「日本語教育の参照枠」最終報告として国語分科会において取りまとめる予定である。

○目的

「日本語教育の参照枠」の理解・活用を促進し、広く活用できるようにするため、教育現場で活用するための手引きや学習者のための支援ツールを作成するとともに、外国人と共に働く日本人に向けた効果的な広報の在り方について検討する。

○方法

小委員会の下にワーキンググループを設置し検討を行う。なお、日本語教育小委員会に随時報告することとし、了承を得たものについては開発・作成に速やかに着手する。

○検討事項

- (1) 手引きに含むべき項目について
- (2) 学習者のための支援ツールについて
- (3) その他の効果的な広報・活用のための方法について

○想定される成果物

- (1) 「日本語教育の参照枠」活用のための手引き
- (2) 学習者のための支援ツール
- (3) 「日本語教育の参照枠」広報資料等

○開催スケジュール

- | | |
|-------|------|
| 第 1 回 | 5 月 |
| 第 2 回 | 6 月 |
| 第 3 回 | 8 月 |
| 第 4 回 | 11 月 |
| 第 5 回 | 1 月 |